



山陽小野田市ふるさと文化遺産

「小野田セメントと笠井家」

【問い合わせ先】社会教育課 (☎ 82-1205)

「小野田セメントと笠井家」の物語

詳しい物語の内容は、市ホームページに掲載しています。

Kasai
笠井家

★STORY★

明治14年(1881年)、日本初の民間セメント製造会社が設立され、小野田は日本近代化の先駆けとなります。会社が事業を進めるにつれ、港や鉄道などが整備され、住宅や商店が建ち並ぶまちができ、さらには学校や病院、道路などの都市機能が整備されました。

このまちの誕生に大きな役割を果たしたのが笠井順八、その長男の建次郎、そして次男の真三です。明治から昭和初期までの小野田は、笠井家に牽引されながら歩んできました。笠井家が残した遺産は、まちの大切な財産として市民に受け継がれています。

順八と会社の創業～土族の救済と日本の近代化～

「順八①」は明治14年(1881年)に後の小野田セメントを設立しました。明治維新後に生活の糧を失った土族を救済するため、そして日本の近代化にセメントが必要であると感じたためです。セメントの原料や燃料が周辺にある小野田に工場を建設、「笠井さんは人夫か社長か、ごみにまみれて共稼ぎ」と誹られるほど、順八は働きました。工場内には創業時に建造されたセメント焼成用の「豎窯(通称：徳利窯)②」などが残されています。



順八の人柄が偲ばれる住吉の丘

順八は小野田を眼下に望む住吉の丘で生活しており、毎朝、小野田セメントの鎮守社「住吉神社」に祈誓していました。隣接する「若山公園」は順八の私庭だったものです。明治33年(1900年)、業績不振により、「部下の不始末は社長の不始末」と順八は社長を辞任し、九州に隠せしますが、それを嘆いた小野田の人々は屋敷を建て、順八を再び迎えました。「旧笠井順八邸灯籠③」はその庭に建っていたものです。



建次郎とまちの発展～寒村から近代産業都市へ～

順八は「会社と地域の発展は不可分」との信条のもと、まちの発展にも尽力しました。その意志を引き継いだのが、長男で小野田町長を務めた「建次郎④」です。まちの大動脈「産業道路」(丸河内～公園通～小野田駅間)や水道の開設、日赤病院の誘致、現小野田工業高校の設置等、近代産業都市となるにはどれも不可欠な事業でした。順八・建次郎が頭取を務めた「旧小野田銀行本店⑤」は、大正元年(1911年)に建てられました。



真三と会社の発展～日本を代表する会社へ～

順八が設立した小野田セメントは国内外各地に進出します。その中心となったのが次男の「真三⑥」で、ドイツでセメント技術を学んだ後、技師長、社長として国内最大級のセメント製造会社に育てました。「山手倶楽部⑦」は真三が大正3年(1914年)に社交倶楽部として建てた大正時代を代表する洋風建築で、隣には真三の「旧宅」もあります。「日本社事務所⑧」は、昭和3年(1928年)に建てられた鉄筋コンクリート造のデザインを重視した大正建築です。



小野田を見守る笠井家

順八が小野田セメントを設立してから、建次郎と真三が相次いで亡くなる昭和10年代までの約60年の間に、小野田は寒村から近代産業都市へと飛躍を遂げました。笠井家が残した遺産と意志を受け継ぎ、さらにまちを発展させるため努力し続ける小野田の人々を、南中川墓地の一角にある「笠井家墓所」から静かに見守り続けています。住吉神社境内には順八の徳を称え、「笠井順八翁像⑨」が建てられました。

